

## 不動明王像

サンスクリット語で、アチャラもしくはアチャラナータといい、動かないことを意味することから、「不動」と訳されました。古代インドでは、シヴァ神を意味するものでしたが、仏教に取り込まれてからは、密教において、大日如来の化身として、明王のなかでは最高の位を与えられ、また五大明王の中心でもあります。不動明王は大日如来の命を受け激しい忿怒の表情をし、常に火焰の中にあって、その燃えさかる炎であらゆる障害と一切の悪を焼き尽くします。

日本へは空海によって密教とともに伝わり、信仰を集めました。千葉成田山新勝寺の本尊である不動明王は平将門の乱を平定するために祈願されたと伝えられています。

しばしば**国家安泰を祈願**し多く作られ、軍神としても信仰され、最近では**家内安全、商売繁盛、交通安全**といった現世御利益を祈るようになり多くの信仰を集めています。

特徴として最もよく見られるのは一面二臂の座像で、童子形という子どもの体型をしています。これは、ひとたび煩惱を断ち切って仏道に精進する者に対しては、子どものように素直で従順であることを示しています。(平和の大塔の不動明王もこの形です)

瑟瑟座もしくは岩座に座し、**火焰光背を背に右手に剣、左手に羂索を持っているのが一般的**です。左右の持物が逆の像や、蓮華座に座すものもあります。瑟瑟座(しつしつざ)

**髪の毛を束ねて左側に垂らし、頭の上で髷をつくっています。**

不動明王(ふどうみょうおう)

ヒンドゥー教の最高神であるシヴァ神が原型とされています。不動明王は五大明王の中心になる明王で、「お不動さま」といえば、不動明王のことを言います。

不動明王は、大日如来の化身といわれ、激しい表情と炎によって**あらゆる障害と汚れを焼くことで、悪を破壊**します。出家して修行をする身には擁護し悟りの極地に導くとされています。

不動明王は2人の子供を従えていることがあります。1人は肌が白く合掌している「矜羯羅童子(こんがらどうじ)」で、もう1人は肌が赤い棒を持った「制咤迦童子(せいたかどうじ)」で、共に世話をするなどの意味があります。

不動明王は、お不動さまとして良く知られており、不動には「動かざる山の如し」の意味があることなどから不動と言われています。

不動明王の明王達は、如来や菩薩のように慈悲深い相ではなく**忿怒の形相**をしています。

この忿怒の形相には、時には厳しく叱りたしなめることも必要とされることと考えられています。忿怒な形相をしている不動明王は、弘法大使空海が初めて日本に伝えた時に、現世の大日如来の化身と伝えられたそうです。

空海により、日本では単尊で信仰されることになった不動明王ですが、インドや中国では五大明王の一人として祀られています。

不動明王の姿は、忿怒の相に両眼を見開き天と地をにらみ、右手には悪業や煩惱を打ち砕く知恵を象徴する剣を持ち、左手には衆生を仏の道から外れないために慈悲の象徴として羂索(けんさく)を持っています。また、不動明王の背中には煩惱を焼き尽くすとされる火炎光背があります。

**天地眼**(右眼を見開き、左眼を半開きにした形)といわれる目で、左右の目を天と地を同時に見ています。これは世の中すべてを見通している証です。下の歯で上唇を噛み、上の歯で下唇を噛んでいる。これらは、平安時代末期以降に多く作られました。

【慈悲】(じ ひ) 仏・菩薩(ぼさつ)が人々をあわれみ、楽しみを与え、苦しみを取り除くこと。

【忿怒】(ふんぬ) ひどく怒ること。

## 明王とは

密教における最高神大日如来の命を受け、仏教に未だ帰依しない民衆を帰依（きえ）させようとする役割を担った仏尊を指す。この尊格は強剛難化な衆生を教えに導く役割を負っているため教令神（きょうりょうしん）あるいは教令輪神（きょうりょうりんじん）という名で呼ばれる。或いは全ての明王は、大日如来が仏教に帰依しない強情な民衆を力づくでも帰依させるため、自ら変化した仏であるとも伝えられる。そのため、仏の教えに従順でない者たちに対して恐ろしげな姿形を現して調伏し、また教化する仏として存在している。



五大明王・不動明王を中心に、左右に二体ずつの明王(下記)を配しています。明王殿には不動明王・降三世明王・軍荼利明王・大威徳明王・金剛夜叉明王が奉安されています。当山の御本尊不動明王は、真言密教の最高仏と位置づけられる大日如来の成り代わった御姿です。お不動さまは、私たちの心の迷い・煩惱を取り除き、全ての人を救うため、忿怒のお顔を示されています。また、ご奉仕をする心の大切さを私たちに教えるため、奴僕(やつやく)の姿になっています。右手に握っておられる利剣は「悟りの智慧」を象徴し、心の迷いを断ち切ってくださいます。そして左手に持っておられる羂索(くわんさく)の縄で、煩惱を縛って封じ、正しい教えの道へと導いてくださいます。お不動さまがお座りになる磐石(いんせき)は、全ての人を救うため、あらゆる苦難に耐える決意を表しています。お不動さまの廣大無辺の慈悲に感謝して、日々お祈りしましょう。

成田山 HP より

**お不動さまは忿怒(いんご)の表情で、全ての人を救おうとされます。**

- ① 右手には心のあらゆる迷いを断ち切る利剣を握っています。
- ② 左手には物事を正しい方へ導くための羂索(くわんさく)という縄を持っています。
- ③ お不動さまがお座りになっている磐石(いんせき)という大きな岩は、堅固な御心を表しています。
- ④ お不動さまは、あらゆる障害を焼き尽くす火焰(くわん)を背負っています。

**不動明王の青い色は**

奴僕(やつやく)とは召使(めいし)を意味する言葉で、献身的に他者に奉仕する者を指します。お不動さまは、あらゆる人びとを苦しみから悟りの世界へ救い導くために、青黒色の肌をした奴僕(やつやく)の御姿(ごせい)となって、私たちに御加護(ごかご)くださっています。